
地域交流実践演習Ⅰ 活動報告

グループ1～グループ10



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

私たちのグループは今治タオルについてまとめて発表しました

今回、地域交流実践演習の授業で、今治タオル組合の近藤聖司先生の話をお聞かせいただきました。その中で特に印象に残ったことは、今治タオルの吸水性の高さと肌ざわりの良さなど、その質の高さです。今治タオルが成功していることに感銘を受けました。そこで、今治タオルを題材として、私たち学生が今後、今治地域を活性化するために、どういう視点を持ち、何ができるかということをお課題にし、グループ12名でお話ししました。

今治タオルについて

～1班～

青野健誠・伊藤まりあ・岩崎涼

阿部沙菜・井上一臣

赤瀬航平・秋山文太・石村多絵

相原美希・阿部美咲・伊藤朱理・伊藤美香



授業を通して自分達が考えたこと

今治タオルをPRして、興味を持ってもらう。

PRの内容・方法



吸水性・肌触りの良さ等

看板やポスター、ネットによる発信

一般のタオルと今治タオルの違いを体験してもらう。

その中で、まずは自分たちが今治タオルを使ってみることから始め、タオル美術館に行ってみたり、もっと今治タオルの良さを知ることから出来るのではないかと考えました。それから、twitterなどで、その良さをアピールし、多くの人に知ってもらうことができるのでは、という意見も出されました。

他には、タオルの歴史を調べてまとめたり、タオル作りの体験をしてみることに、「めいたん」のオリジナルタオルを作成する、今治タオルで赤ちゃんや子どもの遊べるおもちゃ、布団、枕カバーなどを作るといった、様々な意見が出されました。

ただ、これらの意見は、すぐにできること、個人でできること、他の力が必要なこと、お金のかかることなどが含まれており、その中で学生である私たちが力を合わせて、地域とかかわりながら出来ることをまとめてみました。

今の自分達が出来ること

- ▶ 自分達で今治タオルについてのポスターやパンフレットを制作する。
- ▶ 制作したポスターを学生祭のブースに貼り、パンフレットを配布する。
- ▶ ポスターを今治明德短期大学のサイトにあげる。
- ▶ 学生祭で今治タオルの性能を体験してもらう。
- ▶ 学生祭でデザインを募集し、タオルのデザインコンテストを開催する。

例えば、学生祭などの大きなイベントを活かし、普通のタオルと今治タオルを用意し、体験ブースなどを設置する。学生が考えたデザインを何種類か選び、一般の方にも学生の方にもどのデザインが良かったか投票してもらうブースを置く。タオルのポスターを作り、展示する。また、そのポスターを「めいたん」のサイトに載せてもらう、という考えが出ました。

学生祭なら学生だけではなく一般の方でも、学校行事として参加できるので、「めいたん」らしさが地域の方々に示せるのではないかと思います。

感想とまとめ

- ▶ 今治タオルは他のタオルよりも値段が高いが、性能はとても良いことが分かった。
- ▶ 私たち学生も地元産業の一つである今治タオルについてもっと詳しく知ることが必要である。
- ▶ 地域交流実践演習を通じて今治タオルに限らず今治には、多くの秘めた可能性があることがわかった。
- ▶ 自分たちが今、地域のためにできることを考え、行動に移していくことが大切である。

今治タオルを題材にした授業をまとめると次のようになります。まず、今治タオルは他のタオルよりも値段は高いが、性能はとても良いことがわかりました。次に、私たち学生も地元産業の一つである今治タオルについてもっと詳しく知ることが必要であると認識できました。

授業で年森恭子先生にお話いただいた、地産地消「絹かわナス」についてまとめました

地産地消～絹かわナス～

特徴と課題

- ▶ 皮が柔らかく、皮ごと食べられる。
- ▶ 一つ一つの実が大きい。
- ▶ 調理法が多種多様で、意外な料理にもなる。
- ▶ 地元にししか知れ渡っておらず、その価値が分かっていない。
つまり、認知度が低い。

解決策

- ▶ アンケートをとる
 - ① 普通のなすと絹かわナスの、焼きなすを用意する。
 - ② 学生祭で一般の方に食べ比べてもらう。
 - ③ どちらが美味しかったか、その場でアンケートをとる。
- これにより、絹かわナスの認知度が高まる。

その場で一緒に絹かわナスを売るのもアリ！！

今の自分達ができる事

- ▶ 郷土料理や絹かわナスが誕生した経緯を調べる。
それぞれの歴史が分かり、重要性和価値が分かる。
- ▶ 自分達で調理法を考案して、地域の方々に試食してもらう。
例…絹かわナスのフライ・ピザ風なすの丸焼き・なすジャム
- ▶ 農家との合同企画を立ち上げる。
→ 種植え～収穫の体験、及び調理・試食など。

感想とまとめ

～タオル～

- ▶ 今治タオルと今治には、多くの秘めた可能性がある！！
- ▶ アーティストのライブタオルに、今治タオルが使用されている。
- ▶ 他のタオルよりも高いが、性能はとても良い。
- ▶ 今治タオルについて詳しく知りたい→タオル美術館へGO！！
- ▶ 今治市以外の者として、この授業を通して今治について多くの事を知った。

～食～

- ▶ 絹かわナスのそうめんがあると言う事を知った。
- ▶ 同じ名前の料理でも、作り方や味に違いがある。
- ▶ 絹かわナスは地元人にとっては当たり前があるので、その価値に気づいておらず、もったいない。

地域交流実践演習Ⅰを受講して～学生の感想等～

今治を知ることで、地域への興味・関心を高めることができました！

- ・いろいろな人の学びなどが聞けて良かったです。
- ・今治の地域課題が判明して良かった。他の地域課題も知りたい。
- ・今治のことについて、1班でいろいろ考えることができた。これは、今治を良くしようと頑張っている人がたくさんいるからだと感じました。
- ・今治のことを知れました。駅の売店でタイ飯のおにぎりを売っています。各地の駅で特産品を売れば、多くの人に知ってもらえると思います。



今治について考えることで、今治って「素敵なまち」だと気付きました！

- ・今回の体験を通して、たくさんのことを学ぶことができました。今治に住んでいても、知らないことがたくさんあったので、すごくなりました。
- ・地域の様々なことを知り、自分で見直さなければならぬと思いました。
- ・おへんろ、サイクリングや今治タオルなど、今治や地元のことについての話をたくさん聞いて、グループでたくさん意見を言い合って、今治って素敵なまちだなんて思いました。



グループワークを通してコミュニケーションの取り方を学びました！

- ・とても大変。まとめるのも大変でしたが、しっかりとできて良かったです。
- ・最初は緊張しましたが、みんなと交流を深めながら、コミュニケーションがとれました。
- ・いろいろなお話を聞いて、今治や地域のことを考えられました。グループの話し合いも最初の方よりだんだん良くなったと思います。

学生が各回のグループ
ワークでまとめた報告
用紙（抜粋）



担当教員より

前期の地域交流実践演習 I、1 グループは、「あ・い」のあるグループです。
（グループメンバー皆さんの頭文字はアカイで始まるので…）その名の通り、温かく、和やかな雰囲気グループワークが展開できたのではないかと思います。

学科やコースの異なるメンバーが一つのまとまりとして、他者の意見を聞き、自分の意見を述べ、まとめる作業は、想像したよりも難しかったのではないのでしょうか。

地域交流実践演習では、アクティブラーニング、つまり、学生自らが主体的に学ぶことが重要なポイントです。しかし、いったい、どんなことが求められているのか。

地域を知ること、地域に関心を向けること、地域の課題に気付くこと、自分ができることを考えること、他者とコミュニケーションをとり、協力しながら学ぶこと、その成果を伝えることです。これらの学びは、学生のレポートやグループワークでの活動を見る限り、1 グループのメンバー一人ひとり、達成できたと思います。

今の社会では、答えのない、あるいは、答えが一つではない課題が山積しているからこそ、このような学び方、課題に向き合う姿勢が求められます。

今治について、さまざまな良いところを知り、地域を見直すとともに、こうした主体的な学びの重要性を感じてもらえればと思います。

一緒に学ばせて頂き、ありがとうございました。（高家・寺川）



私たちのグループはしまなみ海道サイクリングについてまとめて発表しました

地域交流実践演習 I

しまなみ海道サイクリング



グループ番号2

岡田憲太 酒井留美 重松未羽 岩城唯
 大下佐季子 茨木優太 大西明日香 大西彩乃
 大元海人 桑原佑弥 小池真紀

地域交流実践演習 I の講義を受けて

4月から5つのテーマについて聴講し、グループワークをおこなってきました。

1. 「四国へんろ道世界遺産化と地域づくり」
2. しまなみサイクリング 「官民協働で取り組む自転車旅行振興の現場から」
3. 島しょ部の福祉「今治の地域福祉」
4. 「食は素敵なコミュニケーションツール」
5. 「今治タオルブランドへの工程」

私たち2班はこの5つのテーマのうち、NPO法人シクロツーリズムしまなみ代表理事 山本優子さんを講師にお招きし学んだ、サイクリングを通じた地域づくりについて考えてみようと思いました。



講義では、NPO法人シクロツーリズムしまなみの取組みとしてJR四国に提案し車両に自転車持ち込み可能な「サイクルトレイン」の運行ができるようになったこと。

道路交通法が改正されタンデム自転車が走行可能になった経緯などが紹介されました

また、自転車の歴史や自転車旅行・新産業の市場性、産業を先行するヨーロッパの現状などスライド画像により学ぶことができました。

「NPO法人シクロツーリズムしまなみ」とは

私たちは、今治にしまなみ海道を活用して町おこし、地域を活性化したいと活動している「NPO法人シクロツーリズムしまなみ」があると言う事を講義の中で知りました。しまなみ海道のガイドツアーやサイクリングロードの改善、サイクリストの休憩や宿泊所などさまざまな活動をされているそうです。

現在しまなみ海道沿線に95箇所存在する「サイクルオアシス」の紹介もありました。サイクルオアシスとは、2005年に始まった「自転車モデルコースづくり事業」の一環として整備した、住民によるサイクリストへの軒先提供の場所のことです。

「サイクルオアシス」では、さまざまなサービスを行っています。

「給水」「休憩」、「自転車の空気入れ」、「トイレ」、「インフォメーション」などがあります。

世界各地からやってくるサイクリストをお迎えしたい！

地元住民が休憩できるスペースを提供しています。



その活動を応援するために、私たち学生ができることは？

四国遍路「お接待」で培われたおもてなしの心を大切にしながら、今治明德短期大学生としてできる活動はあるのか？

国内外からの多くのサイクリストに対し「サイクリストの聖地」にふさわしいおもてなしを提供することはできるのか？

サイクリストの快適性を高める為には？

などのテーマに意見を交換しあいました



〈学生からの意見・感想〉

1. サイクリングロードの清掃をする(定期的に掃除をする)
短大の行事の中にボランティアの日を決めて掃除をするのはどうか？
 2. イベントを行い郷土料理でおもてなしをする(サイクリングイベントに参加・出店)
 3. サイクリング中に手軽に食べられるフィンガーフードを考える(今治のご当地グルメとして商品開発)
- ②と③については、調理師専修科やライフデザイン学科製菓製パンコース・食物栄養コースが中心となって考えればどうか？
4. 今治明德短期大学入口やめーたんホールなど、サイクリストが休憩できるスペースを作る。(しまなみサイクルオアシスとして)
サイクリストにとって、地元情報を得られ、休憩しながら交流歓談できる空間を作ることができる。
 5. 休憩所で足湯ボランティアをする
ライフデザイン学科介護福祉コースが中心となって行う。

6. 大学でのサイクリングイベントを行う
(家族参加のサイクリングイベントを行い幼児教育学科が中心となり小さい子供も参加できるコーナーを考える)
 7. ライフデザイン学科国際観光ビジネスコースの留学生により多言語のサイクリングロード・今治案内を作成する
- 各学科コースの専門性を活かしたさまざまな意見が出ました

後期には実際にサイクリング体験をします、サイクリング体験を通し私達ができることを探してみたいと思います。自転車でしか感じられないことがたくさんあると思います。今治の魅力を直接体感しないと、県内外の人たちに発信することもできませんまた、自転車の交通ルールやマナーについても学ばなければいけないと思いました。

グループワーク・発表風景



〈学生からの意見・感想〉

- ・実際のサイクリングロードを走ってみる。
- ・現状を把握していません、まずは、サイクリング体験をしてサイクリストの気持ちを考えてみたい。
- ・地域の人たちと交流して問題点を見つけたい
- ・地元だけ知らないことが多いと知った
- ・継続してボランティア（掃除）ができるのか？また、1年間で後輩に引き継ぐことができるのか？
- ・今治出身でないのに「今治」を知らない事ばかり。まずは身近なところから今治のことを知りたいたいこの講義を受けて思いました。
- ・今治をアピールするお手伝いができればいいと思った。
- ・人と人とのつながりが大切なのだと感じました。
- ・今治タオルなどブランドを守っていくことの大変さを知った。
- ・食の大切さ人とのつながりの大切さを知った。
- ・今治市で世代交流の大切さ支えあい、助け合いの意識を持ちたいと思った。

〈職員の感想（渡邊・韋）〉

地域交流実践演習Ⅰでは地域における取り組むべき課題についてグループワークをしてきました。

1. 「四国へんろ道世界遺産化と地域づくり」
2. しまなみサイクリング「官民協働で取り組む自転車旅行振興の現場から」
3. 鳥しょ部の福祉「今治の地域福祉」
4. 「食は素敵なコミュニケーションツール」
5. 「今治タオルブランドへの工程」

今までに地域について考えたことのない学生にとって難しい課題ばかりでした。また、他コースとの混合グループということもあり、意見は遠慮しがちで、はじめのうちは意見交換が全くなされていない状態でした。しかし、2回目のグループワークの時、途中で講師の山本優子さんが教室に来られ、ひと言「難しく考えなくて、まずは身近なところから自分できることを」というアドバイスをいただきました。それからは、グループワークをしても、意見や思ったことも言葉にできなかった学生も感じた事思った事を言うようになってきました。

授業の話し合いを通じて得たことは、簡単なことでもいいから、今治明德短期大学生の専門性を活かした活動ができないのだろうか？でした。

学生たちの、意識統一やモチベーション維持がこれからの課題となると思います。

学生が地域に入り地域とともに成長していくことを目指し、卒業後も地域に貢献できる人材になってくれればと思い感じました。



地(知)の拠点事業 3班 活動内容報告



▶ 介護福祉学科

503007 瀬野葉子

503008 竹内彩花

▶ 食物栄養学科

506005 大谷梨嵯

506006 織田知恵実

506007 菅 正子

▶ 幼児教育学科

504009 奥久保裕乃

504010 越智美桜

504011 織田舞子

504012 梶原希望

▶ 調理専修科

071003 近藤加奈子

071004 笹野翔平

▶ 担当教員

中島先生

正岡先生

何かできる事を考える

- 今治はよい街で、消滅して欲しくない。地域活性化は必要。

- 若い人の関心が薄いので若年層にひびく何かが必要だ。

- 今治明德短大の学科で学んだ専門知識を使い、地域活性化に向けて私たちができること。

- 「食」をテーマのイベントを今治明德短大で行う。



調理専修科の私たちが考えました!

○ 授業内容

和、洋、中の調理実習



- 地域交流実習
- しまなみ料理
- 焼豚玉子飯
コンテスト



▶ 地域を活性化させるために・・・

▶ **今治の農産物を使って**今までにない料理を生みだし、新たな特産物としてPR&発信!

食物栄養コースの私たちが考えました

▶ 栄養価計算

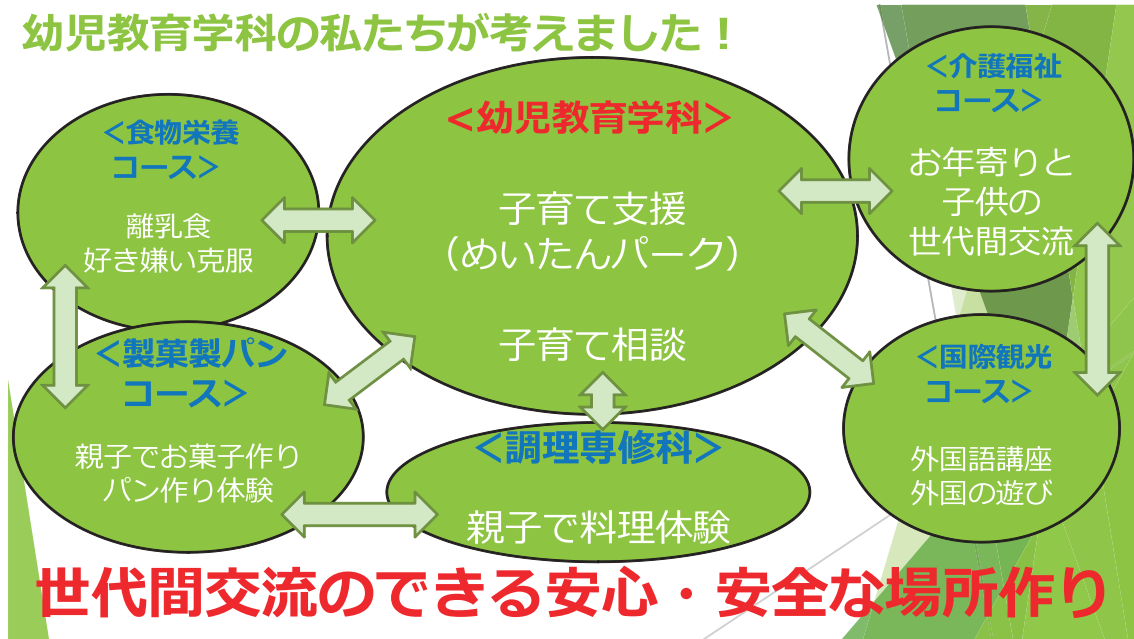
▶ SAT (サット) システム



<http://www.foodmodel.com/index.html>

食物栄養コースは、調理師専修コースの人が作った料理の栄養価を計算することができる。また、サットシステムを使えば、計算をしなくても栄養価を簡単に測れることを体験できる。サットシステムとは、ICチップを内蔵した食品サンプルをトレーに乗せ（1食分・1日分）、その栄養量を測る。パソコンと連動しており、普段の食生活で摂取している栄養価が一目でわかるため、不足しがちな栄養摂取へのアドバイスが分かりやすく、今治市民の健康に役立つと考えた。

幼児教育学科の私たちが考えました！



世代間交流のできる安心・安全な場所作り

幼児教育学科は、子どもと子育て支援を中心に、各コースと共同活動を考えた。例えば、調理師専修科や食物栄養コースと協力し、「保護者と一緒にオリジナル離乳食を作る」「好き嫌いを克服する料理を考える」など。また、介護福祉コースと「子どもとお年寄りの世代間交流」を企画、国際ビジネスコースと協力して「外国語講座」や「外国の遊び」を紹介する場所も提案する。

今治が「世代間交流のできる安心、安全な場所」となるよう、お手伝いをしていきたい。

介護福祉学科の私たちが考えました！ 一未知の移転計画？！



1. 今治特別支援学校
2. 2015年4月より、廃統合された学校の有効活用
 - ・ 日吉小学校
 - ・ 城東小学校
 - ・ 美須賀小学校
 - ・ 今治小学校
3. 地域の人とふれ合いやすくなる

介護福祉コースは、身近な支援を中心に考えた。今治の中心地から少し離れた場所にある特別支援学校を、統廃合された学校へ移転することを提案します。街の中心に近い場所に移転することにより、生徒さんがより多くの地域の方々と触れ合え、関わる事で支援への理解が深まりできる支援が増えていく。

たくさんの方が繋がる事で、地域がもつ能力は活かしやすくなるのではないかと考えます。

私たちが感じた事

▶ 講演を聴いて・・・

- ・ 地域を活性化させる為に、色々な人が色々な方向へ動いていることを初めて知った。
- ・ どの講演も、地域や全国に広げていく事を中心に話していた。
- ・ 広げていく為には、もっと知ってもらわなければならないと思った。
- ・ 地域の人と協力する事が必要だとわかった。

▶ グループでの話し合いの中で・・・

- ・ 今までは興味がなかった事も関心をもてるようになった。
- ・ 皆地域の事に関心があるとわかった。
- ・ 皆地域の魅力と感じていることは似ているんだと思った。
- ・ 皆で協力することを学んだ。
- ・ 他学科の人と仲良くなれた。
- ・ 「食」でみんなと盛り上がった。



—まとめ—

- ▶ 街を活性化する為には1人ではできないが、1人1人が街の一員だという意識を持つ事が大事である。
- ▶ たくさんの人に今治を知ってもらい、好きになってもらえば活性化に繋がる。
- ▶ その為には、小さな事でもできる事からコツコツとやっていくこと。

大好きな今治の事を
たくさん考えて、
たくさん知れて、
とても有意義な時間
でした！



〈学生の感想〉

- ・自分の興味を持っている分野、逆に持っていない分野についても知る機会が持て良かった。地域の人々の生の声を聞き、問題を知り、理解し解決策をみんなで話し合うこの流れが大切だと思いました。(Kさん)
- ・最初は、心細かったけどだんだん楽しく話せるようになった。身近にあるものは、意外と気付かないので身近にあるものを見直していきたい。地域のPRは大事なことだと思った。(Sさん)
- ・みんなで食について話して、たくさん笑顔になってコミュニケーションがとれた。それこそが人と人とのつながり。みんなと仲良くなれたし自分の知らなかったことを知る事が出来た。(Kさん)
- ・他の人と意見交換は、とても自分の見えていない問題や、足りない知識など気がつかなかった所も見つけることができ新たな発想ができてよかった。自分たちの個性ある明短生ならではの、解決策を見つけ出せてよかった。(Oさん)
- ・いろいろな講演を聞いて、自分の意見だけでなく、周りの人の意見も聞くことができよかった。今治のことについて、私は知らなかったけど、今回の講演、発表を聞いて今治のことについて知ることができました。(Kさん)
- ・他の学科・コースの人たちと仲良くなれて、廊下ですれちがう時に挨拶するのが嬉しくなりました。これは、地域活性化への一歩だと思いました。グループワークでは、県外から来た、私の意見を聞いてくれたり、地域の情報を教えてもらえたり…この授業の目的に合致する体験ができ有意義な時間だと思いました。(Oさん)
- ・グループのみんなで、司会、記録、準備等協力し合い緊張したけど発表も言えてよかった。今治をこんなに深く知る機会に出会って、知らない活動もあり驚きました。これからもっと地域の活動に目を向けたと思いました。(Oさん)
- ・今治のいいところは何処か出している中で【今治明德短期大学】が出てきた。今治のいいところ…「明短がある」「地域の活性を学生が発信することが出来る」「学生が“人と人との架け橋”になれる」…こんな素晴らしい明德で学べることを誇りに思います。話し合いができ、素敵な授業ですね。(Sさん)
- ・自分一人では、思いつかないこともグループの人と話すと、いろいろな案ができてグループの人とも仲良くなれてとても良かったです。(Tさん)




学びの種がいろいろな場所に広がり
芽を出し、笑顔の花が咲いて広がりますように
一人ひとりの笑顔の輪がいつか何処かで…また大きな笑顔の輪になることを。

(中島・正岡)

4班は、講師講演を聞き、その中でサイクリングについて話し合いし、まとめました。

サイクリング



4班

幼児教育学科	504013 菊川祥之	504014 木村勇祐
	504015 黒田ありさ	504016 後藤有香
介護福祉コース	503009 竹内陽美	503010 津田真由美
食物栄養コース	506008 管未来	506009 鴻上千佳
国際観光コース	505007 操涛涛	505008 費璋



しまなみ街道



サイクルトレイン



ダンデム自転車

・しまなみ海道

しまなみ海道は、世界で唯一の自動車道を自転車で渡れる橋になっており、橋を渡るために世界中からサイクリストが集まっている。

・サイクルトレイン

予讃線には、自転車をそのまま乗せられる列車がある。

・ダンデム自転車

愛媛県は、二人こぎ自転車で公道を走ることのできる数少ない県である。



ブルーライン

シクロの家

世界七大聖地

- ・ブルーライン
車道を走行する自転車利用者に対し、左側走行の原則に対する注意を促したり、自動車運転者に対して、自転車への注意を促すもの
- ・シクロの家
ゲストハウス。サイクリストの交流拠点になっている。
- ・世界七大聖地
しまなみ海道は、自転車の世界七大聖地の一つに選ばれている。

講習を受けて学生が気付いたこと

- 自転車は車と違い小さな集落や路地での出会いが魅力
- 好きに移動してその地域の暮らしの風景を楽しめる
- しまなみ海道は今治に有益な経済効果をもたらすのだと思った
- ブルーラインでなく自転車専用道を増やしたらどうか？

自転車は、車と違って小回りが利き、狭い路地に入ることができ、そこでの出会いや好きな場所に移動してその地域の暮らしや風景を楽しむことができる。

自分たちにできること

- 自分たちで実際にしまなみサイクリングを体験してみる
- 短大でサークルを作って活動



まずは、講習を聞いて考えるだけではなく、実際にサイクリングで走って体験し、新しい発見につなげたい。

さらに、サイクリングに関心のある学生を集めて、短大にてサークルを作ることをめざす。

実行プラン

- 自転車が好きな人を集めて同好会を作る
- シクロの家に行きコミュニケーションをとる
- 今治の名所を回るサイクリングコースを考え観光客を案内する
- しまなみのイベントやボランティアに積極的に参加する
- 学校の行事等で活動実績をアピールする
- サイクリングを通して地域貢献しながら皆が楽しんで行けるようにしたい

授業を通して、学生達の感想

- 各分野の専門の講師の方から話を聞くことができ、グループワークでの話し合いではいろんな意見がでて楽しかった。
- 他の学科・コースの人たちと交流することができて良かった。
- 本来関わることのなかった先生とも関わる事ができた。
- 今治の良いところを知ることができたし課題も見えてきた。
- 町おこしには、まずは町の良いところを知り、好きになること、そして行動をおこす事が発展につながると思った。
- グループワークでは、みんなの前で発表や司会をするなど貴重な経験をする事が出来た。



◎担当教員の感想・コメント（竹田・井手）

地域交流実践演習の目的・テーマが、「問題解決型学習、自ら気づき、考え、行動し、振り返ることができることを目指す」であり、グループワークでの教員の立場はファシリテーター役であったので、できるだけ学生主導で進めて行けるように、努めました。

始めの頃の授業では、違う学科やコースの学生が集まっているので、遠慮や緊張があったのか、自ら発言するということまではいかなかったように思います。

しかし、回を重ねるごとに意見が出るようになりました。学生の視点から出てくる意見はユニークなものから関心させられるものまで様々な意見が飛び出してくるので、聞いてて私自身も楽しむことができました。

グループで出た意見をまとめ、プレゼンテーションする姿を見ていると、改めて大学生らしい授業内容であると感じました。



サイクリングの振興は現在、県・市が最も力をいれている分野です。そういった意味で、地域交流実践演習にて学生がサイクリングに取り組んでくれたのは良かったと思っています。

いろいろとサイクリングを振興するうえで気付いたことも大事ですが、自分たちで行動できる事のひとつに、「短大でサイクリングのサークルを作って活動する」をあげてもらって大変嬉しく思っています。

サイクリングを通じての観光客誘致やまちづくりに主体的に参画することができ、このことが学生皆さんの卒業後の活躍にも役立つものと楽しみにしています。



「自転車旅行振興の現場」今治市NPOサポートセンター
山本優子先生の講演を聞いて。
グループ名「サイクリンガー！」



メンバー

富田由紀・長野大地・島田良実・清水紗也果・曾我部優里奈・
太田結香・源代拓真・高橋亜依・小西龍次・佐竹碧・篠原由有・
白石大貴

担当の先生 泉先生・桧垣先生

5班は、特にサイクリングの講演について活発な意見交換が行われた。そこで、全体発表のテーマもサイクリングに絞って取り組んだ。



～テーマ選定の理由～

- ・一番印象に残ったから
- ・身近に感じる事ができたから。
- ・意見が一番集まったから。
- ・自転車通学の明短生が多いから。



～感想～

- ▶ ・自分らの県の知らないことを知れて、自分も体験・地域交流をしたい。そして、産官学民とのかけ橋を作りたい。

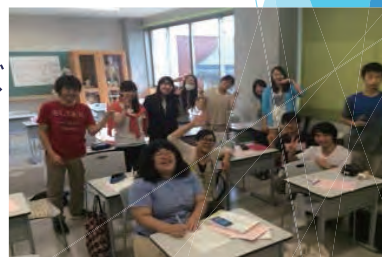


課題

- ▶ ・サイクリングについてあまり知らない。
- ▶ ・自転車についての関心がない。
- ▶ ・自転車が走れる道路などがわからない。
- ▶ ・駐輪場がなく不便。
- ▶ ・しまなみサイクリングの知名度が低い。

何ができるか？ 解決策

- ▶ 1) 自転車をモチーフにしたアートを置く。(お菓子や料理)
- ▶ 2) スタンプラリー
- ▶ 3) 昔の自転車もレンタル可能に
- ▶ 4) 自転車メンテナンス教室
- ▶ 5) 特定のマークを作る。(トイレ、水分補給 など)
- ▶ 6) 盗難防止の駐輪場の設置
- ▶ 7) それぞれの島のキャッチフレーズ
- ▶ 8) 自転車専用レーンの普及
- ▶ 9) 学外イベントを開催

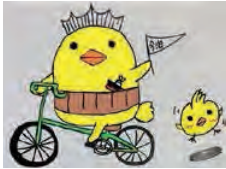


自分達でできること

- 1) 講師を呼ぶ
- 2) 大講義室で開く、地域の人も含めて
- 3) 修理マニュアルを作成

自転車屋マップ（空気入れマップ）

冊子は自転車屋や市役所、
駅などに設置してもらおう
インターネット配信

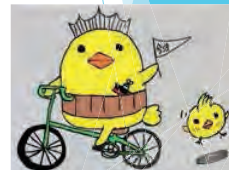


全体のまとめ

- 1) 自転車のモチーフしたものを卒業記念で設置
- 3) レンタル店に依頼
- 4) 講師依頼し、体験
- 5) 地域ならではの情報を発信
↑ →宿泊施設にチラシ設置
自分達で調べる。
- 7) 学内公募。優秀作品には賞品

まとめ

- 1) 市役所の人に依頼
シクロの人に呼びかけてもらう。→講師は
ボランティアでお願いします。
- 2) (自分達がまず学び)、自分達が講師となり開く。
先生に授業日程を考えてもらう。
- 3) HPを作る。
ポスターを作る。
自転車屋の確認する。
冊子の設置場所を決める。(駅、市役所など)



〈学生の感想〉

(サイクリングについて)

- ・自分達が実際にしまなみ海道をサイクリング体験してみたい。
- ・地域活動に参加し、地域の人と交流したくなった。
- ・産官民学の関わりが重要だと感じた。
- ・自分達なりに地域の良さを発信していきたい（SNSを使う等）。
- ・講師の先生の「地域の良さを知った責任」という言葉を忘れないようにする。



(プレゼンテーションについて)

- ・メンバーが意見を出し合えたのでスムーズに作業が進んだ。
- ・まとめるのは難しかったが、地域について真剣に議論することができた。
- ・他の班の発表を聴き、自らの考えを深めることができた。
- ・今治市民でなくても、話し合ううちに関心が高まった。



〈教員からのアドバイス〉

地域交流実践演習は、自分達の地域がテーマであり、自分達が主体となって課題解決に取り組む。この授業を通して今まで見過ごしてきた地域の良さ、あるいは課題に気付けたと思う。

さらに、住民のニーズを探ることで、課題解決の過程を学ぶこともできた。最終的に全体会でのプレゼン発表につなげたが、この一連の作業は就職し社会に出ても大いに役立つだろう。

この授業で知ったことは、数ある地域の課題の一部にすぎない。今後も地域の動向にアンテナを張り続け、関心を持ってほしい。そうすることで、自分達の住む地域は伝統を守りながらも新たに進化し続けることが出来るだろう。

(泉・檜垣)



6班は、授業を通して地域における取り組むべき課題に気づき、自らその解決に向けて考え、実践していくことの大切さを学びました。

そこで、5つの講演をもとにグループワークの中で考えた「今、私達にできること」についてまとめました。

今、私達にできること

6班

白石桃花 玉井伽奈 寺田拓磨 徳永萌子 高橋翼 辻優美子
西坂滯 馬場涼香 高橋滯 丹波実紗希 阿部穂乃香 中野愛



「気づき」 今治のいいところ

- 治安が良く、人が親切
(忘れ物や落とし物が返ってくる)
- 日常生活を送るうえでのお店が多く生活しやすい
- 自然がきれい(特に海)
- 焼き鳥がおいしい
- タオルが有名
- 造船所があるので外国人が多く訪れる



気づきのひとつ目として、まず「今治のいいところ」を考えました。

「気づき」 今治の悪いところ

- ポイ捨てが多い
- 盗難が多い(駅周辺)
- 若者の集まる所が少ない
- 店が少ない
(商店街がシャッター街
になっている)
- 交通機関が不便
(特に電車・バス等)
- 少子化に伴い、学校が
減ってきている
- 水質汚染
- 携帯電話等の電波が悪い

次に、いいところばかりでなく、「今治の悪いところ」も考えました。

今治地域の問題点

1. 公共交通機関が不便
2. ポイ捨てが多い
3. 店が少ない
4. 若者が集う場所が少ない

私たちは、その中の4点に焦点をあてて解決策を考えていくことにしました。



グループで考えた解決策 1、公共交通機関について



不便と感じているところ

JRやバスの本数が少ない。
通勤通学ラッシュ時の電車の両が少ない。



地域の幅広い年齢層の方に
『どこが不便なのか』を聞き今治市に伝える。

公共交通機関は、多くの方々が利用していることから、地域のニーズを正しく把握することが必要。

グループで考えた解決策 2、ポイ捨てが多いことについて

- ゴミ拾いをする。
- 注意を呼びかけたチラシを作成し、
回覧板で回す。
- ペナルティを課す。



グループで考えた解決策 3、店が少ないことについて



商店街に若者が行きそうな店を増やしてもらえ
るよう市に呼びかける。



方法 小・中・高校などでどのような店をいれてほしいか
アンケート調査をし、結果を今治市に伝える

これからの今治市を担っていく、小・中・高校を対象にアンケート調査をする。

グループで考えた解決策 4、若者が集う場所が少ないことについて

今治駅周辺に若者が集う場所を確保する。



方法

徒歩5分ぐらいの圏内で、大型ショッピングモール等の設置を今治市や商業団体に要望する。



中・高生や私たち世代は、電車やバスを利用することも多いため、今治駅周辺に若者が集う場所を確保することができたらいいのではないかと考えました。



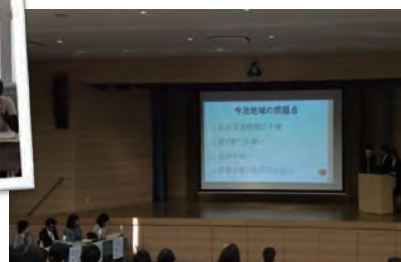
今の自分達にできること

1. アンケート調査し、結果を今治市に伝える。

対 象	内 容
幅広い年齢層の市民	公共交通機関の不便な点
小・中・高校生	ウインドウショッピングしてみたい店 等
本学学生	若者が集う場所の確保について

2. ポイ捨て注意を市民に呼びかけるためのチラシの作成と配布。

はじめの一歩として、「今の自分たちにできること」として実現可能なことはどのようなことなのかを考えまとめました。



授業を受けてのまとめ

今回の授業を受けたことで今治市の現状が把握でき、
問題点と解決策を考えることができた。

地域の人の声を聞いて自分たちが市や関係団体に
市民の声を伝える事が必要だと思った。

次は、自分達にできる解決策を実行していこうと思う。

〈学生の感想〉

- ・ 今まで今治市について深く考えたことがなかったが、実践している方々の話を聞き今治の今とこれからを考えることができてよかった。(Tさん)
- ・ 普段、他学科の人たちと話すことは少ないですが、地域交流の授業を通して仲良くなれたことが良かったと思いました。(Nさん)
- ・ 今治地域のさまざまな活動と今を知ることで、抱えている問題点と解決策を自分たちで考える機会ができてよかったです。(Bさん)
- ・ いろいろな話を聞き、今治の多くのことがわかった。今治出身ではないが良いところだと思った。他の学科の人たちとも話すことができ、良い活動だったと思った。(Sさん)
- ・ 最初の頃は興味がなく授業にも集中できなかったが、グループワークも回を重ねるごとに役割分担もできてきて楽しくなってきた。(Tさん)
- ・ この授業のような体験は今までなかったため戸惑うこともあったが、新しい知識が増え良かった。この授業を通して自分の住む地域と今治市への関心が高まった。(Tさん)
- ・ 皆の前で発表するのは緊張したが、その分の力もついたと思う。(Tさん)
- ・ 最初は興味がなかったが、授業がすすむうちに楽しくなった。(Tさん)
- ・ 今治にはあまり興味がなかったが、この活動を通して興味がでてきた。良いところがたくさんあるのでもっと活性化してほしいと思った。この授業で他のコースの人との交流がよかった。(Nさん)
- ・ 地域のいろいろな人の話を聞き勉強になったし、たくさんすることに興味がもてるようになった。後期からも頑張ろうと思った。(Tさん)
- ・ 今治の良いところ、課題としているところが良く分かった。他の地域や世界にも目を向けられたらと感じた。(Aさん)
- ・ 授業を通して今治の様々な活動を知ることができた。私の地元に比べて学校や店が多く住みやすい街だと思う。今治地域のことについて知ることができてよかった。(Tさん)



〈担当教員より〉

この授業で今治のいいところや悪いところをグループ内で共有することができ、学生同士お互いにコミュニケーションを図ることができました。グループワークの初期段階ではあまり意見がでなかったのが、役割分担が決まり、会がスムーズに進むにつれて、次第に活発な意見や討議ができるようになりました。グループ全員で頑張ってみとめあげ、全体会で発表することができたと思います。

自分達の住んでいる街をどのようにしたいのか、テーマは大きいものでした。それでも具体的な提案や意見がたくさんでました。今からでもすぐできるゴミ拾いから交通の不便さや商店街の店の少なさなど難しい課題もあります。若い視点で今治の将来を語っている姿を見て感動させられました。学生たちが思っている今治の街に少しでも近づくことができるよう、私達教員も一緒になって取り組まなければならないと感じています。

(藤田・相澤)



私たち7班は、5回の講演を聞いて、自転車・料理・タオルでもっと今治を好きになってもらうことができるのではないかと思います、「しまなみファンをふやす」というテーマで話しあいをしました。

★しまなみファン★を ふやすために

グループ7 濱咲 風花 桧垣 大樹 檜垣 七光 藤原 莉乃 緑川 遼
長井奈緒美 中津 華奈 西谷 瞳 浜坂 舞未 日野彩未



課題「しまなみサイクリストをふやすには」

解決策

- ▶ タンデム祭りのようなイベントを開催する
- ▶ 高級スポーツバイクの展示会・試乗会



自分たちにできること

- ▶ 明徳短大のホームページにサイクリングの情報を載せる
- ▶ 学生向けの自転車イベントを企画する



「サイクリストをふやす」という課題では、

- ・“初心者”のためのオススメスポーツバイクのパンフレット作成
- ・明短のホームページに自転車のことを載せる
- ・健康志向に注目したアイデアを出す（イベントを企画する）

という意見ができました。

課題「郷土料理『いぎす豆腐』を広めよう

解決策

- ▶ 優れた健康食品であることをアピールするために
マスコミ関係者を集めて試食会を開く



自分たちができること

- ▶ 食物栄養コースの学生が栄養分析をする
- ▶ 地域の方につくり方を教えていただき、
調理専修科の学生を中心にバリエーションを考える

料理では、郷土料理の「いぎす豆腐」に注目。いぎす豆腐は、とても優れた健康食品ですが、好き嫌いや食べたことがないという人も多い。そこで、

- ・地域の人たちに作り方のコツを教えてもらう。
- ・食物栄養コースの人に栄養分析をしてもらい、いぎす豆腐がいかにかヘルシーな料理であるかをアピールする

ことを考えました。

課題「今治タオルの知名度をもっと あげるために」

解決策

- ▶ 地元企業と連携して、イベント時にタオルの無料配布
- ▶ 全国規模のタオルデザインコンテスト

自分たちができること

- ▶ タオル関係のイベントに積極的に参加する
- ▶ タオルを利用した商品の開発
- ▶ 綿を育て「めいたん純オリジナルタオル」を作る



3つのテーマを合体させた イベントの構想

いぎす
豆腐
試食会

自転車のイベント
を起こす

参加者に
タオルの
プレゼント

自転車で
健康に



サイクリング+いぎす豆腐+タオルで

★しまなみファン☆をふやそう！

しまなみ海道でサイクリングを楽しみながらダイエット

- 目的・・・「ダイエット」「美と健康」
- 内容・・・減らしたい目標(-Kg)に合わせてコース設定をする
- 食事・・・いぎす豆腐を中心にしたヘルシーな献立に限る
- その他・・・参加賞として今治タオル、バリィさんグッズ

このツアーで体重が一番減ったベストダイエッターに
最高級今治タオルを進呈



- 自転車ダイエットの長所は5つ !!
 - ①特別なスキルは不要
 - ②大きな筋肉をつかうので、消費カロリーが多い
 - ③普段運動していなくても筋肉に対するダメージが少ない
 - ④毎日の継続が容易
 - ⑤お金がかからない
- 自転車のエネルギー消費量は・・・
 - 体重50kgの人が、時速20km/hで60分走った場合、400Kcal (ごはん一杯半分)
- 体重を1kg減らすには、7,000kcal減らすことが必要・・・
 - 自転車に2時間/日乗ると仮定した時、1kg減らすのに約10日間かかる。
- 最高級今治タオル (バスタオル) 1枚 3万円

◇ 前期の授業を終えて… (学生の感想)

- 今治地域の様々なジャンルの話を聞くことができました。私は今治市民ではありませんが、今治のことに詳しくなり、今治が好きになりました。
- ゲスト講師の話を聞いた後のグループワークが楽しかったです。司会進行や書記、記録係、発表者と毎回違った役割を担いました。司会進行を担当した時は不安でしたが、グループの皆が協力してくれたのでうまくいきました。



- 各回に出た意見をまとめる作業が大変だったが、パソコン操作の得意なメンバーが、プレゼンテーション用のスライドをうまく作ってくれた。
- 自分と違った意見を聞いて納得したり、さらに話を広げたりと、充実した面白い授業でした。

◇ 前期の授業を終えて… (担当教員より)

「地域の取り組むべき課題に気づき、その解決に向けて実践する態度を培う」という目標のもと、今年度から始まった地域交流実践演習ですが、地域の実情を知り、コースを超えた仲間と共に解決方法を探るという点においては、大きな成果があったと思われます。今後は、更なる実践を通して、実際に地域で貢献できるよう、小さなことから取り組んでいただきたいと思います。

西本

この授業で初めて言葉を交わしたという学生も多く、なんだかよそよそしい雰囲気でしたが、すぐに打ち解け、活発に意見が出るようになりました。しかし毎回うまくいったというわけではありません。それぞれの役割を果たしつつ、コミュニケーションをとりながらグループワークを円滑に進めていく難しさを感じたのではないのでしょうか。このユニークな授業の経験と成果をこれからの学びに活かしていけるよう期待します。

上村聖

私たち8班は、5人の講師講演を聞き、特に興味を持ったサイクリングについてまとめることにしました。

しまなみサイクリング

グループ名・・・めいたん8



- | | |
|---------|---------|
| ◆日吉 貴久 | ◆藤澤 七海 |
| ◆福山 紗季 | ◆堀川 潤 |
| ◆松木 優生子 | ◆松木 渚 |
| ◆村上 知子 | ◆松木 瑞恵 |
| ◆矢野 歩美 | ◆名越 満里奈 |
| ◆深川 幸子 | ◆藤本 隆悟 |

感想

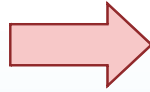
- 自転車で渡れる世界で1つだけの橋を大切にしている。
- ママチャリが日本にしかないことに驚いた。
- タンDEM自転車で公道が通れるのは6県だけで驚いた。
- サイクリングしたい道世界7位以内にしまなみ海道が入っていて驚いた。
- サイクリングを通して色々な人との交流が深まるのはいいこと。
- しまなみサイクリングにたくさんの人が協力しているのを初めて知った。
- 世界初の自転車がドイツで作られたのが驚いた。

タンDEM自転車で公道を走る事ができるように、市民の力でルール改正まで至ったことに驚きました。子どもや視覚に障害のある方も楽しむことができ、よいと思いました。

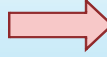
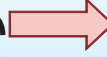
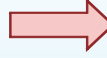
自転車をそのまま列車に乗せることができるサイクルトレインやしまなみ海道が、世界で唯一の自転車で渡ることのできる橋であることなど、初めて知ることが多かったです。

多くの人が、注目してくれていることをしり、嬉しくなりました。

問題点



- トイレが少ない
- 電灯の少ない場所がある
- 自転車の貸し出し時間が短い
- 自転車のルールを守らない人がいる



- 県外の人に情報がわかりにくい

解決策

- 環境整備
(トイレ及び道の整備・トイレを増やす)
- 貸し出し時間を延長し、自転車の数を増やす
- 自転車のルールを守るためのルールブックを配布
- 案内所を作り、おすすめのルートのリピーター案内する。
- サイクルトレインの運行時間を増やす。日・曜日の設定。

以前は、海水浴などのシーズンごとにしか人は見かけませんでしたが、今では多くのサイクリストを目にするようになりました。地元民として、交流を大切にしていきたいと思います。

しかし、並列運転やペットボトルのポイ捨てなど、マナーの悪い人が多いことは問題です。みんなが気持ちよくサイクリングできることが、人々の交流を増やすきっかけになるのではないかと思います。



今の自分たちにできること

◆清掃ボランティア

- 駐輪場や橋のゴミ拾い
- ゴミ箱の設置
- 近隣の学校などに協力してもらい、清掃活動をしてもらう



◆しまなみ海道のPR

- パンフレットを制作し、設置する

絶景ポイント、美味しいお店、宿（風呂）、
地図（危険な場所）、
自転車を借りられる場所（マナー、ルール）

まとめ

- 今治市の人口は、平成22年で16万人、平成52年には11万人とどんどん減少し、「このままでは消滅都市になってしまうかもしれない」ということに大変驚きました。そうならないためにも、今回の話し合いで出てきた、今の自分達にできることを実践し、しまなみサイクリングを活性化させたいです。
- 地域の方との交流を通して何度も来てくれるリピーターを増やすことが大切。今あるものをより良くし、次にきた時も変わらない美しさを保つ事が大切だと思いました。



〈学生の感想〉

実際に、自分たちでできることを考えてみると、なかなかよい案が出なくて苦戦しました。他の班の意見等も聞きながら、自分のできることを実践しようと思いました。

私たちは、班での話し合いの時、できることを個人であつたり行政や地域単位で考えていました。しかし、他の班は、学校で（が）できることも考えており、視点の違いに感心しました。問題点は多々ありますが、周囲への目の向けようで大きく変わると思います。周りへの気配りなどを大切にしていきたいです。

〈この他にも、それぞれの講演で様々な感想がありました。〉

1. 四国へんろ道世界遺産化と地域づくりについて

歴史の長さに驚きました。へんろの原点は「お互いを支え合うこと」と聞き、感銘を受けました。人の「いたみ」が分かる人間になりたいです。おへんろを広めるためには、まず自分が理解し体験をして良さを見つけることが必要と感じました。

世界遺産について何も知らないので、まずは、世界遺産について知り、それから何ができるか考えたいです。

清掃とお接待の心を育む。



2. 地域課題解決につながるイノベーション

人口減少の話に驚きました。最近では、ゆるキャラやB-1グルメ等で全国的にも注目され、経済的に成長していると思っていたので意外でした。

3. 今治市の地域福祉活動について

地域の良さと問題点を把握した上で、自分たちの願いを含めて出来ることを提案したい。

住民との助け合いの大切さを改めて実感しました。住民の意識が急に変わることはないと思います。徐々に変えていくためにも、自分のできることを考えて行動したいです。



通学にバスとJRを利用していますが、時間のロスが多く、その時間をつぶす場所もないと思います。若者が集まりやすく、かつ、地域貢献につながる場所ができると嬉しいです。

4. 食の地産地消と地産他消

地域の食材を活用してオリジナルのレシピを作成し、ネット等々に紹介したり販売して広める。

食の大切さ、食に係わる職業がたくさんあることが分かりました。いただいたレシピ本には、地元の食材を使った料理がのっているので、是非自分でも作ってみたいです。

地元の食材や料理をいざ挙げてみると、片手で数えられるほどしか浮かびませんでした。特に、「今治の」となると…。まずは、知ることから始めようと思います。また、地元でも食べたことのない料理もあり、食べてみて、感想やお勧め、作り方などを紹介するのもよいと思いました。地元の食材を使った料理を考えて調理することは短大でもできるので、栄養のことをもっと勉強して、実際に活動した時に栄養コースらしい意見が言えるようにしたいです。

何がおいしいのか、自分で意識して見つけたり、地域の方に教わったりして次の世代に伝えたり新しいことを開発していくことが必要だと感じました。

5. 今治タオル 奇跡の復活

何気なく見ていたブランドマークの意味を知りました。「質が良いが故に高価」そのため、手が出せなかったりもったいなくて使えないということも……。まずは、地元から触れる機会や加工品を増やすなどしてみる。親しみを持つことができれば、商品の価値をもっと理解し自信を持って人に勧めることができると思います。また、お遍路の取り組みと連携して、グッズとしてミニタオルを無料で配布するのも良いかなと思いました。



〈教員のコメント〉

地域交流実践演習は、全学的な取り組みであり、他学科・コースの学生と一緒に
て取り組むことはこれまでありませんでした。初回のグループワークは、通常一緒に
過ごす学生以外との関係づくりがまず必要で、初対面の学生同士がリラックスして意
見を述べられるようにアイスブレイクによる環境設定の配慮が必要であった。それぞ
れのテーマごとに司会進行、記録、発表と役割分担を行ったが、学生には役割を上手
くこなせる人とそうでない人がおり、その中で、出来るだけお互いに対等に発言でき
るように、学生の言葉を生かしながら随時、道先案内人として教員はアドバイスを行
うように心がけました。しかし、話し合いが膠着した時、どこまで、踏み込むべきか
悩みました。

この授業に「答え」はありませんでした。何を感じ実践するかは学生次第。学生の
より良い意見を引き出すための手法を、教員も学ばなくてはならないと思います。ま
だまだ始まったばかり。

前期を通して、学生たちが日頃から身近に意識しているものに関して、活発に意見
を出していました。地域とのつながりを大切に、これからも地域に社会に貢献できる
ように頑張りたいと思います。

(松田・中居)



KJ法を活用

各自の意見を書き上げ、集約調整

課題について、「学生の視点」で自分たちが地域で何を実践し貢献できるか討論を行った。

私たち9班は、食と自転車に重点を置き、「今治のよいところ」を発信できないか考えました。

自転車をつなぐ食文化 ～サイクリンググルメの提案～

9班

松岡悠介・矢野瑠里・山中泰子・
曲遠達・秦泗紅・眞鍋あみ・
眞鍋瑛美・向井心咲・森高由理・
松木理紗・松本裕次郎・水谷友子



サイクリングの現状

- 国際サイクリング大会を開催している。
- 外国の人たちが参加している。
- シクロの家がある。



ファンを増やす方法

1. 安全性を伝える。
2. キャンペーンをする。(サイクリングに参加する人たち)
3. 女性目線のファッションを考える。
4. 各年齢の大会を開催する。
5. 健康改善のためのサイクリングの提案をする。

サイクリングを通してできること



今治の特産物

- *みかん
- *やきとり
- *せんざんき
- *いぎす豆腐
- *じゃこ天
- *鯛めし など

食は素敵な
コミュニケーションツール



食と人とのコミュニケーション ～特産物の伝え方～

- * SNS
- * 作って実際に食べてもらう
- * 手作りポスターをつくる
- * 交流会を開く

特産物とサイクリングの融合



サイクリングの休憩所などに特産物を置く。
特産物を食べてもらう。

今治の特産物が
全国に、世界に
広まる

サイクリング
する人も増え
る

今治の活性化
にもつながる

我が街 今治から全国へ発信

サイクリングであつなく食文化

サイクリンググルメの誕生



〈学生の感想〉

「しまなみ海道を自転車で渡る」これを日本全国、さらに世界に広めつつある素晴らしい活動が地元で行われていることに驚きました。サイクリストのための法律や施設があり、県を挙げてサイクリング振興に力を注いでいることを聴講し、色々な取り組みを知ることができました。深く印象に残ったのは、今日知ったことは自分から誰かに伝えなければならないという山本先生の言葉です。まずは自転車に乗ってしまなみを渡ってみたいです。

同時に今治の食の特徴やアピールポイント、文化継承したいことなどについてグループで意見交換をしました。今まで考える機会がなかったため、まとめるのに大変苦労しましたが、「サイクリングと食」をコラボレーションさせることで、これからの取り組み課題の提起になったと思います。さまざまなジャンルでご活躍されている先生方のお話を聞き、今治人としての自覚が足りないことを痛感しました。



〈教員の感想〉

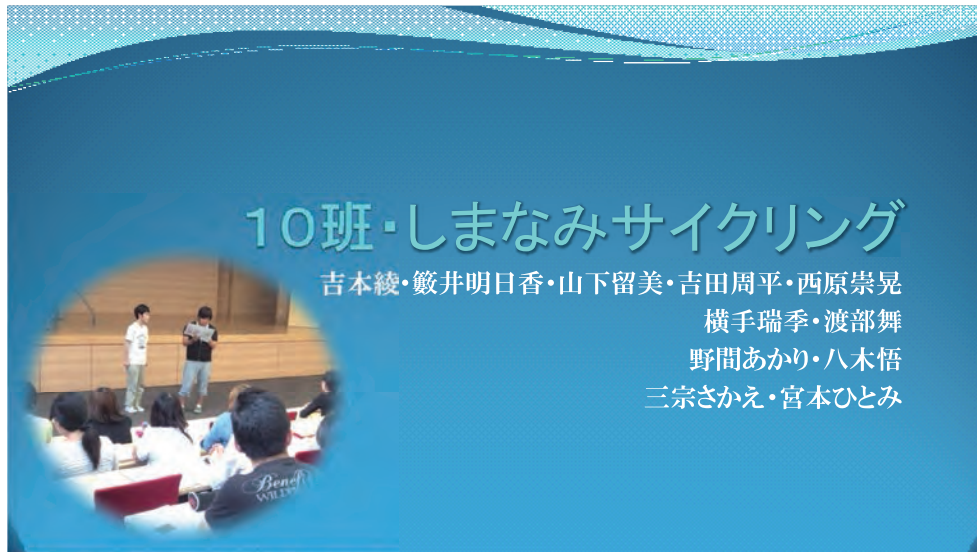
9班は、5つのテーマについて、学生がそれぞれ意見を出し合ったが、最終的には、自転車旅行振興の現場からの講義で「サイクリング」、食に関しての講義から「今治の食文化」という2つのテーマについてまとめていった。

今治は、広島尾道とつながる「瀬戸内しまなみ海道（以下、しまなみ海道）」があり、しまなみ海道には、日本で初めての海峡を横断する自転車道(瀬戸内海横断自転車道)がある。しまなみ海道は、景観もよく全国からサイクリストが訪れており、サイクリストの聖地とも言われている。学生は、普段の交通手段として自転車を使用する学生も多く、街中でサイクリストを見かけることもあり、サイクリングに興味をもった学生が多かった。また、今治の食文化についての講義で、講師の方が「食は素敵なコミュニケーションツール」と仰っていたこともあり、サイクリングと食を繋げることで今治の地域の良さをより多くの人へと伝えることができるのではないかと学生たちから意見が出た。その為には、どのような行動が必要なのかというところまでの話し合いを行った。

最終的に、学生たちから「私たちは、今治を盛り上げていくために、今治の地域性を生かしたサイクリングと美味しい特産物をコラボレーションさせ、サイクリングと同時に地元の美味しいものをしてもらうという“サイクリンググルメ”を提案する」という意見でまとまった。

学生たち自身の学びの場であり、生活の場である今治の良さに目を向けると同時に、これからの課題を考えるきっかけづくりとなった。

5回の講演を聞いたまとめとして、話し合いの結果、しまなみサイクリングについてまとめることにしました。



10班・しまなみサイクリング

吉本綾・簀井明日香・山下留美・吉田周平・西原崇晃
横手瑞季・渡部舞
野間あかり・八木悟
三宗さかえ・宮本ひとみ

歴史・変化

- ・公共でのタンデント自転車、利用可能(2010年)全国16ヶ所
- ・サイクルトレインができた。
今治初!
- ・しまなみ海道を自転車で走れる。(珍しい・貴重である)
- ・自転車ゾーンが作られた。



イベント・サービス

シクロの家とは？

- ・九州・阿蘇であそび心満載の事業を展開する「ゲストハウス*阿蘇び心*」のプロデュースで誕生した自転車大好きな方々が運営する旅の宿!
- ・自転車には乗らない人や宿泊しない人も楽しめる上、コミュニティスペースや情報スペース、さらにバイク・セルフメンテナンスルームも完備!

住所:愛媛県今治市北宝来町1丁目1-12
電話:0898-35-4496



ルールとマナー

●自転車の安全対策のための県の取り組み

自転車の安全な利用の促進に関する条例が施行、県内県立高校生3万人にヘルメットを無償配布する取り組みが行われました

●私たち、明短生にできる取り組み

・交通安全講師を招き、自転車安全講習会を開催し、受講修了者には明短オリジナルワッペンを配布します。

・タオルの町今治として、四国を訪れるサイクリストにリピーターになってもらいます。
そのために、走行距離に応じたプレミアムタオルマフラーを製作しプレゼントします。
(例)金、銀、銅色の橋をワンポイントに入れるなど。

このような活動を通じて、サイクリストのマナーを向上させ、安全を守り楽しんでもらいたいです。



利用者を増やすために私たちにできること

●タオルやワッペンのデザインを考える

講習会で渡すワッペンやタオルのデザインを考える

●休憩所でみかんジュースを配る

サイクリングをしている人に無料でみかんジュースを配る

●海外の利用者を増やすために

外国語の看板を設置する。



まとめ・感想

- 遠方からのリピーターを増やし、しまなみサイクリングから今治を盛り上げていきたいです。
- サイクリングの良さをたくさんの人に知ってもらいたいです。
- 地域との交流がとても大切だと思いました。
- サイクリングは地域の活性化に大切な町おこしの一つだと思いました。
- 地域交流の授業を受けたからこそ気づけたことがたくさんあり、今後の学校生活にも積極的に取り組んでいきたいと思いました。



10班は、サイクリングについてまとめましたが、5回の講演を聞き、学生からは様々な意見や感想がありました。

〈学生の感想〉

1. 四国へんろ道世界遺産化と地域づくりについて

これまで知らなかった歴史や遍路のルールなどを知ることができた。野宿してまで遍路をまわるという意欲に驚いた。自分にはできないと思う。

自分の浅い知識が恥ずかしくなった。四国遍路が身近なものになった気がする。興味が出てきた。

人とのつながりのために歩いているという意見に共感した。遍路は自分の人生を見つめなおすためだけでなく、人とのかかわりが生じることに重点があり、自分の苦しみを知り、人や物をいとおしむ気持ちが重要で、それがお接待の心にも通じていることがわかった。

なぜ遍路か、なぜお接待か～ご住職の言葉「与えられるだけではない、与えられる方も施しではない」などから共有、共感することを学んだ。

2. 地域課題解決につながるイノベーション

町おこしには、地域住民、行政、企業等事業所、などとの連携が重要だということがわかった。しまなみ海道は地域の活性化にとっても重要な拠点だと分かった。

班に分かれてもっとしまなみ海道をにぎやかにするためにはどうしたらよいかを考えた。伯方の塩を使ったスイーツや婚活イベント、新しいご当地グルメ、シクロの家での試食会、プレミアムタオルマフラーの製作、配布など皆で出し合った。サイクリングに自分も参加してみたいと思った。

3. 今治市の地域福祉

地域福祉について学び、自分自身が高齢化した時の生活も視野に入れて話し合った。福祉サポートが思うより以上に多くあることがわかった。地域福祉向上のために、インフォーマルサービスが、フォーマルサービスと同様に大切であることがわかった。地域をより良いものにするための話し合いには、積極的な意見が多く出ていた。

地域住民と、行政、民間などの「新たな支え合い」「共助」「協働」が大切だと分かった。



4. 食の地産地消と他産他消

食育は、食べる栄養としての料理を作ることだけでなく、外国の方々とのつながりをも創るコミュニケーションツールとして、知らないことを知るためのきっかけなどとして等、様々な手段の契機になることがわかった。地元食材への購買意欲を高めるための方法について話し合った。

野菜ソムリエという資格を初めて知った。地産地消のもとに調理や試食の機会をもって、小さな子どもたちにも食の重要性を知ってもらいたいと思った。

5. 今治タオル奇跡の復活

今治タオルはよく目にも耳にもするが、その付加価値や今治以外の地域や外国からの評価について知ることができた。高い吸水性や安全性など、地道な努力の積み重ねが結実した商品であると分かった。価格が高めなので、なかなか購買意欲につながらないという問題点を聞いたので、気軽に地域の人を買えるような取り組みができたらと思った。

地産のブランドを定着させるためには、メディアの利用や地域に根付いた組合との連携、コミュニティ単位での活動なども重要であると分かった。

発表を終えての感想

今治について考える良い機会になった。学生同士での意見交換ができ、スライド作成にも協力し合って取り組むことができた。なかなか最初は皆意見を言わないので困惑したが、徐々に積極的な人も出てきたので安堵した。社会人になってからはこのような講義を聴く機会も得られないと思うので有意義だった。



〈教員のコメント〉

私は本学に在職して29年になりますが、全学で取組む教科・科目は残念ながら今までに無かったように思います。もっとも、全学で今治の夏祭り（おんまく）に参加したり、遍路を共通教育に取り入れた先例はあって、地域交流を通して、本学学生としての帰属意識を高めたり、地域文化を実地に学ぶ機会がありました。

私学教育の特色を出すには、全学的な教育実践が求められるところですが、その試みが文科省の補助事業に採択されたことはとてもタイムリーなことだと思います。今回の地域実践演習では自ら考える力と、それを表現する力を養うために、教員も学生も学科・コースの垣根を越えて、一つの課題に取組みました。グループ学習にありがちな学習者間の積極性・消極性の格差や、発表の稚拙さなど、初めての試みでしたので今後の課題も多々見えてきました。教職員と学生の創意と工夫で授業を改善し、コミュニケーション力の豊かな学生が育つことを期待しています。（武田）

学生自身が主体的に考えるという取り組みは、重要であると認識されている一方で短期大学のように限られた時間の中で教育し資格取得を支援する場では、実践の機会がなかなか取れないのも事実でありましょう。このような中で、他の学科・コースの学生、教員が協力し合ってテーマについて検討し、物事を作り上げるという取り組みは、意義深いものであったと思われれます。

当初は発言にしり込みしたり意欲的でないように見えた学生も、回を追うにつれて徐々に積極性が増していく様子が見られました。これからの社会では、多職種、他機関との協働は不可欠ですので、この経験が社会参加ご専門職として力を発揮すべき時に、きっと役立つであろうと確信しています。（玉井）

